

特集 やってみよう SDGs

世界のプラスチックごみ問題に、まずはお住まいの地域から!

「あなたのみち」から始める ペットボトル回収・リサイクルシステム



令和3年度「家庭でできるエコ活動」こどもポスターコンクール 優秀賞受賞作品 【大阪市環境局・大阪市教育委員会事務局主催】

なぜ、世界でプラスチックごみが問題になっているのですか?

プラスチック素材は、ご存じのとおり、軽くて丈夫で加工がしやすく耐水性もあり、とても便利かつ安価な素材です。しかし、海の中には1億5,000万トンものプラスチックごみがあり、それらがマイクロプラスチックとなって、海の生態系に入り込んでいます。人間の体にも食を通じて取り込まれている可能性があり、大きな問題となっています。さらに、日本近海には世界平均と比較して非常に多くのマイクロプラスチックが滞っているといわれています。

解決への糸口として、ポイ捨てはしないことはもちろん、海洋プラスチックごみのもとなるプラスチック、特に使い捨てプラスチックを減らすことが重要です。使い捨ての容器包装プラスチックごみは増加傾向にあることから、どうしても必要なプラスチックは、使い捨てから資源循環に転換していくことも大切です。

新たなペットボトル回収・リサイクルシステムについて教えてください

新たな回収システムは、現在、資源ごみとして行政回収しているペットボトルを、地域コミュニティ(地域活動協議会・連合振興町会)と参画事業者が連携協働して回収するものです。

この取組では、これまでごみとして出していたペットボトルを価値あるものとして事業者へ売却し、その売却益を地域の収入として、地域のために活用できるようになります。

また、ごみの分別に対する意識をより高めていくことで、さらなるごみの減量・リサイクルを推進するとともに、質の高いペットボトルを回収し国内におけるマテリアルリサイクル(ボトルtoボトル等)を促すことで、プラスチックの資源循環を推進します。

これまでの資源ごみ収集(行政回収)と比較して、どんなところが違うのですか?

ペットボトル自体の分別方法はこれまでと同じで、そのペットボトルだけを大阪市の資源ごみ・容器包装プラスチック収集のない曜日(地域曜日)に設定するなどして回収します。

現在の行政回収では、ペットボトルは、卵パックや衣料類などの原料として、リサイクルされています。この手法では最終的には焼却処分され、CO<sub>2</sub>が発生します。

それに対して、新たな回収システムはペットボトルからペットボトル等へと生まれ変わらせ、焼却することなく繰り返し資源循環させるものであり、



大阪市環境局 東北環境事業センター

事業推進担当課長 中野 礼英 さん

減量美化担当係長 笠井 信吾 さん

環境負荷の低減につながる手法だと言えます。

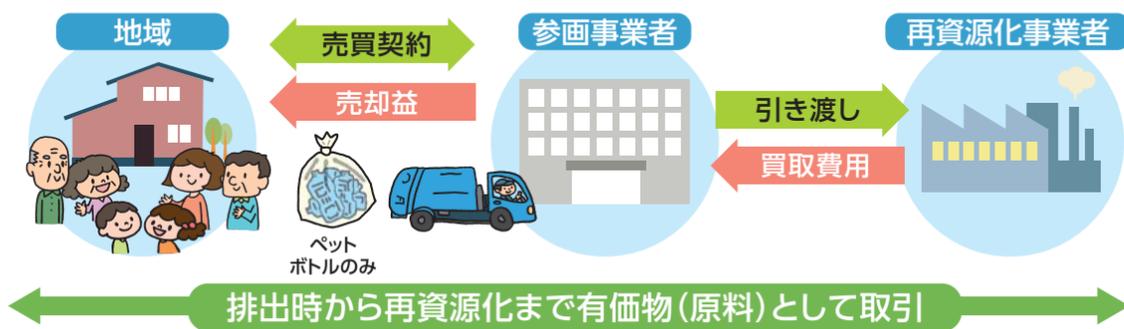
大阪市ではペットボトルを年間7,311トン(令和2年度実績)回収していますが、組成分析調査では、普通ごみ等にも年間約1,000トン含まれていると推定されます。それらを分別回収し、100%リサイクルする社会をめざしています。なお、使用済ペットボトルからペットボトルを作った場合、石油からペットボトルを作った場合と比較すると、CO<sub>2</sub>が大幅に削減できます。

区民の皆さんにメッセージを

新たなペットボトル回収・リサイクルシステムは、活動で得た売却益を地域コミュニティへ還元するとともに、国内のプラスチックの資源循環を推進するものです。

地域と未来のこどもたちのためにも、地域コミュニティでの新たなペットボトル回収・リサイクルシステムに取り組み、SDGsの推進にご理解・ご協力をお願いします。

新たなペットボトル回収・リサイクルシステム



新たなペットボトル回収・リサイクルシステムのポイント

従来の資源ごみ・容器包装プラスチックの日とは別の曜日にペットボトルだけを回収※  
※大阪市の資源ごみ収集は、変わらず続きます。

収集したペットボトルは新たなペットボトル等としてリサイクル

回収で得た利益は地域に還元することができます

CHECK! 大阪の河川にも大量のプラスチックごみ!!  
ここから海へ流れていくことも...



河川清掃もSDGsのひとつ!  
海や河川からプラスチックごみを減らしていきましょう!

東北環境事業センター 6323-3511

新たなペットボトル回収・リサイクルシステムについて詳しくはこちら



新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの取組にぜひご協力ください!

本年4月から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されました。

ペットボトルなど化石燃料由来のプラスチック製品については、その利用を減らしていくことが重要ですが、どうしても必要なプラスチックは、使い捨てから資源循環へ転換していく必要があります。ご紹介の取組は、ごみの分別意識を高めるとともに、地域コミュニティへ売却益を還元し、活力ある地域社会づくりに貢献するものです。また、温室効果ガスの排出削減、ペットボトルの資源循環に寄与するものであり、SDGsを推進する取組です。

本市では、地域コミュニティ内で合意形成後、新たに取り組を開始する地域を対象に、地域住民への周知ビラを作成し、各戸配布する普及啓発の支援も実施しています。新たなペットボトル回収・リサイクルの取組にご理解・ご協力をお願いします。



東淀川区長 西山 忠邦

広告